

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 6 部門第 3 区分

【発行日】令和 2 年 12 月 10 日 (2020.12.10)

【公開番号】特開 2019-133237 (P2019-133237A)

【公開日】令和 1 年 8 月 8 日 (2019.8.8)

【年通号数】公開・登録公報 2019-032

【出願番号】特願 2018-12444 (P2018-12444)

【国際特許分類】

G 0 6 F 3/0484 (2013.01)

G 0 9 G 5/00 (2006.01)

G 0 6 F 3/0482 (2013.01)

H 0 4 N 5/74 (2006.01)

G 0 3 B 21/00 (2006.01)

G 0 3 B 21/14 (2006.01)

【 F I 】

G 0 6 F 3/0484 1 2 0

G 0 9 G 5/00 5 1 0 H

G 0 9 G 5/00 5 3 0 T

G 0 9 G 5/00 5 5 0 X

G 0 6 F 3/0482

H 0 4 N 5/74 Z

G 0 3 B 21/00 E

G 0 3 B 21/14 Z

【手続補正書】

【提出日】令和 2 年 10 月 26 日 (2020.10.26)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 4 2

【補正方法】変更

【補正の内容】

【 0 0 4 2 】

図 3 に示す第 1 階層 K S 1 は、最上位階層である。第 1 階層 K S 1 に属するメニュー項目 M K は、メニュー種別を最も大きく分類した項目であり、最上位階層に属するメニュー項目 M K (以下、最上位メニュー項目 M K と表現する) (第 1 のメニュー項目) である。図 3 では、第 1 階層 K S 1 に属するメニュー項目 M K として、メニュー項目 M K 1 1、M K 1 2、M K 1 3、M K 1 4 の 4 つを代表して示している。

メニュー項目 M K 1 1 は、画質に関するメニュー項目 M K を表示するため項目である。メニュー項目 M K 1 2 は、映像に関するメニュー項目 M K を表示するための項目である。メニュー項目 M K 1 3 は、拡張設定以外の設定に関するメニュー項目 M K を表示するため項目である。メニュー項目 M K 1 4 は、拡張設定に関するメニュー項目 M K を表示するための項目である。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 4 8

【補正方法】変更

【補正の内容】

【 0 0 4 8 】

図 3 では、第 4 階層 K S 4 に属するメニュー項目 M K として、メニュー項目 M K 4 1、

M K 4 2、M K 4 3、M K 4 4、M K 4 5、M K 4 6、M K 4 7、M K 4 8、M K 4 9の9つを代表して示している。

メニュー項目M K 4 1、M K 4 2、M K 4 3、M K 4 4は、第3階層K S 3に属するメニュー項目M K 3 3を細かく分類したメニュー項目M Kである。メニュー項目M K 4 1は、ポイント補正を実行するためのメニュー項目M Kである。メニュー項目M K 4 2は、ポイント補正を行う際の交点数（ポイント数）を設定するためのメニュー項目M Kである。メニュー項目M K 4 3は、ポイント補正において格子線の表示色を設定するためのメニュー項目M Kである。メニュー項目M K 4 4は、実行したポイント補正を取り止めるためのメニュー項目M Kである。

メニュー項目M K 4 5、M K 4 6、M K 4 7、M K 4 8、M K 4 9は、第3階層K S 3に属するメニュー項目M K 3 8を細かく分類したメニュー項目M Kである。メニュー項目M K 4 5は、エッジブレンディングのオンオフを設定するメニュー項目M Kである。メニュー項目M K 4 6は、エッジブレンディングを開始する開始位置を設定するメニュー項目M Kである。メニュー項目M K 4 7は、エッジブレンディングの曲線種類を設定するメニュー項目M Kである。メニュー項目M K 4 8は、プロジェクター100の位置合わせのためのマークを表示するためのメニュー項目M Kである。メニュー項目M K 4 9は、テストパターンを表示するためのメニュー項目M Kである。

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0057

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0057】

一方で、制御部170は、決定ボタンK Bを操作して選択したメニュー項目M Kに下位の階層があると判別した場合（ステップS5：YES）、この下位の階層に属するメニュー項目M Kを表示させる（ステップS7）。次いで、制御部170は、ステップS7においてメニュー項目M Kを表示させるために操作したメニュー項目M Kの操作順を記憶部160に記憶する（ステップS8）。